あとがき

本書の最終原稿をまとめていた二〇二〇年前半は、新型コロナウィルス感染症（COVID-19）のパンデミックで、世界中が混乱に陥っていた時期である。新型コロナウィルス感染症への対応を巡っては、百年ほど前のスペイン風邪の事例を参照し、第二波、第三派の方が死者の数は多かったと、注意を促す記事も見かけた。ところで、一九一八年から一九二〇年にスペイン風邪が北米で流行した時以降、アニシナベの人々の間で、鐘の音が響くジングル・ドレス・ダンスが広まった。今日では、多くの女性がこのジングル・ドレス・ダンスを踊っている。ブレンダ・J・チャイルド（Brenda J. Child）によると、彼女自身が聞いたジングル・ドレス・ダンスの始まりは、次のようであった。

> あるオジブエ（アニシナベ）の少女が病気になり、今にも死にそうになった。父親は最悪の事態を恐れ、娘の命を救うためにヴィジョンを求めた。父親はそのヴィジョンを通じて、ある特徴を持つドレスの作り方と独特の踊りを学んだ。父親は、娘のためにドレスを作り、娘に足が地面から離れないような仕方で踊るように頼んだ。しばらく踊ると、娘は元気が出てきて、踊り続け、病気から快復した。娘は元気になった後も、この鈴の音がするドレスを身に付け、踊りを続けた。そして、最初のジングル・ドレス・ダンス結社を組織した。*

二〇二〇年の新型コロナウィルス感染症のパンデミックの最中、アメリカ・カナダからSNS上で、世界中の人々に癒しを届けようと、ジングル・ドレス・ダンスをする先住民族の男女の姿が数多く映し出されていた。

本書は、神話と歴史の問題を取り上げているが、幾つかの研究領域に跨っている。第一には、神話学の範疇に入るが、従来の神話研究とは趣きが異なる。というのも、歴史的文脈を強調し、そこに神話の語り手を位置づけようとするからである。第二には、宗教学において先住民族宗教の神話研究は、いかに位置付けられるのかという問題である。第三には、アメリカ・カナダ研究において、先住民族の宗教・神話研究をいかに位置付けるのかという問題である。それぞれ想定している読者層が異なるので、宗教学の専門家には既に共有されている議論も、他分野の研究者に分かるように簡潔な説明をしたため、専門家からすると物足りない議論となっているのではないかと思われる。

本書は、筆者が今までに折に触れて発表してきた北米先住民族の神話、儀礼等に関する論文を、歴史における文化交渉と宗教・神話という共通のテーマのもとで、大幅に加筆、修正して、まとめなおしたものである。これらの論文の初出は下記の通りである。

初出

序章　前半は書下ろし。後半の先住民性の概念（indigeneity, indigenousness）とその異種混淆性と液状性に関する議論は、下記が初出である。Takeshi Kimura, “Toward Hybrid and Liquid Indigeneity,”『哲学・思想論集』四二号、二〇一七年三月、四四（七五）～三五（八四）頁。

第一章「北米植民地時代のコンタクト・ゾーンにおける『ビーバーの骨』と『笑い』をめぐる先住民族とイエズス会士」、『筑波大学地域研究』二一号、二〇〇三年三月、一八五～一九一頁。元の論文は、本章の第二節までの短いものであった。第三節は、本書のために書き加えた。

第二章　「「母なる大地」を巡る宗教史学的考察」、『宗教研究』第七〇巻第二輯（三〇九号）、一九九六年九月、四七～六九頁。この論文を書いた当時は、本書のテーマが隠されていることには気づいていなかった。そのため、古い論文ではあるが、文化交渉の観点を組み入れて、加筆、修正を行った。

第三章　「北米先住民族ホピを巡る歴史と神話」、荒木美智雄編著『世界の民衆宗教』ミネルヴァ書房、二〇〇四年、一〇七～一二九頁。

第四章　「語られた神話：北米北西海岸文化地域ハイダ神話から」、篠田知和基編集、栗原成郎・吉田敦彦ほか著『神話・象徴・文化Ⅱ』、楽瑯書院、二〇〇六年、一一七～一三三頁。

第五章　「ナヴァホ・ホピにおける蜘蛛女（蜘蛛婆）と織物の起源」、篠田知和基編『神話のシルクロード』楽瑯書院、二〇一四年、三四九～三六九頁。

第六章　「ウィンディゴ―神話と人格変容の間」、『筑波大学地域研究』第三九号、二〇一八年、三九～五六頁。

第七章　「ホピ昆虫神話」、『哲学・思想論集』四五号、二〇二〇年三月、二五〇（一）～二三四（一七）頁。

第八章　"The Biographical Essay of John A. Gibson（1850-1912), the Seneca Chief of the Six Nations Reserve, Ontario, Canada,"『哲学・思想論集』三七号、二〇一二年三月、一六二（三三）～一二六（六七）頁。

第九章　"The Cayuga Chief Jacob E. Thomas: Walking a Narrow Path Between Two Worlds", in *The Canadian Journal of Native Studies*, 18, no.2（1999): 313-333.

第十章　「神話語りの芸術的表象―ハイダの芸術家ビル・リードに見られる二重の他者性と先住民族性」（『哲学・思想論集』第三二号）、二〇〇七年、二五～四二頁。

第八章は、一九九四年から一九九六年にかけてカナダ、オンタリオ州シックス・ネーションズ・リザーブで行っ

た現地調査に基づいている。本章のもとになる論文の執筆は一九九八年から一九九九年頃に掛けて行った。シックス・ネーションズ議会のケン・ジェイコブ氏には、シックス・ネーションズ議会のマイクロフィルムの記録を見る許可を与えてくれたことに、この場を借りて感謝の意を表したい。シックス・ネーションズ・レコード・センターのアン・スコットさんには、マイクロフィルムの記録を調査する間、ずっとお世話になった。この場を借りて感謝の意を表したい。カナダ、オンタリオのＳＮＲの故カユガ首長ジェイコブ・Ｅ・トーマス氏には、特別にお世話になった。カユガ語で書かれた「ギブソン夫人がゴールデンワイザーに語ったジョン・ギブソンの生涯」という文書を、英語に訳すのをジェイクは手伝ってくれた。一九九五年の夏と一九九六年の春にジェイクはそれぞれ一週間、私の調査のために時間を取ってくれた。彼の協力なくしては、ＳＮＲの歴史を深く知ることは出来なかったであろう。翻訳を作るのを手伝ってくれただけではなく、ホデノショニ・イロクォイ連合の豊かな口承伝承の世界も教えてくれた。筆者が若い時のことであるが、ジェイク・トーマス首長の思い出は、筆者の心に深く刻まれている。カナダ文明博物館には「ギブソン夫人がゴールデンワイザーに語ったジョン・ギブソンの生涯」（ゴールデンワイザー、Ａ・Ａ、コレクション：（III-164M）Box.180, folder.4.I）のコピーを快く作成してくれ、筆者に送付してくださった親切に感謝を述べたい。アメリカ・カナダのイロクォイ研究学部長として知られていた故ウィリアム・Ｎ・フェントン教授は、本章の初稿に目を通してくださり、有益な助言をくださった。この場を借りて感謝の意を表したい。

なお、この章の内容は部分的に、木村武史、『北米先住民ホティノンショーニ（イロクォイ）神話の研究』、大学教育出版社、二〇〇三年と重なる部分がある。二〇一二年出版の英語の論文には、この著作には含まれていない細かい歴史的事実を多く含んでいるので、異なる研究といえる。

第四章のガハンドルが語った神話については、ハイダ部族自治政府（Council of Haida Nation）が著作権を所有しているということを、ここで改めて記しておきたい。

第九章のジェイコブ・E・トーマス氏の写真を提供してくれたイボンヌ・トーマス氏には、この場を借りて、感謝の意を表したい。本書のために写真の提供をお願いするメールを送ったところ、二十数年振りにもかかわらず、快く提供してくれた。

本書に所収した各章は、足掛け、二〇年以上の年月に亙っている。そのため、筆者の問題関心は変わってきていることが分かる。しかしながら、本書のために加筆、修正をする過程で、一貫して文化接触・文化交渉という問題に関心があることに気づいた。また、改めて筑波大学大学院入学時に、シカゴ学派流の宗教学の基礎を教えて下さった故荒木美智雄先生には感謝の意を記したい。筆者のシカゴ大学留学時には、学風が大きく変化する時期であり、その影響は色濃く反映されていると思う。

最後になるが、筑波大学出版会運営委員には、本書の提案を検討し、出版企画として承認していただいたことに感謝を申し上げたい。特に、査読を担当された先生方には、繰り返し原稿を読んでいただき、貴重な意見を賜り、この場で感謝の意を述べたい。なお、第三章「北米先住民族ホピを巡る歴史と神話」は、ミネルヴァ書房から出版された荒木美智雄編『世界の民衆宗教』に掲載されていた論文に加筆、修正したものである。ミネルヴァ書房編集部の方には、本書に加筆・修正の原稿を再録することを認めていただき感謝を申し上げたい。図一北米先住民族文化圏地図は吉田敦彦編『世界の神話英雄事典』（河出書房新社、二〇一九年）に掲載した地図を改変したものである。ここで御礼を申し上げたい。

＊ Brenda J. Child, *My Grandfather's Knocking Sticks: Ojibwe Family Life and Labor on the Reservation* (St. Paul, MN: The Minnesota Historical Society Press, 2014), 130.